

合 同

No. 499

「塩は溶けなきゃ意味がない」

日本キリスト合同教会教師

岸本 茂雄



「あなたがたは地の塩である」(マタイによる福音書5章13節)。

皆さまご存じの通り、塩はわたしたちの生命維持に欠かせない重要な栄養素です。血液や消化液やリンパ液などの体液にイオンの状態で溶けていて、そのバランスを保って生命を維持し、脳や神経細胞の機能に重要な役割を果たします。塩分過剰では高血圧になりやすく、塩分不足では脱水症状になり、疲労感や脱力感や頭痛などが起こります。

わたしたちは料理で塩を使いますが、調味料として味を調え、素材の色や味を引き出し、殺菌や腐敗防止の効用もあります。塩は食材や水分などに溶け込むことで、塩の成分であるミネラルがその効果を発揮します。もし溶けずに塩の塊や粒々のままなら、その効果は発揮されず、塩の意味をなしません。

主イエスは弟子たちに「あなたがたは地の塩である」とおっしゃいました。主イエスを信じ、主に従う者には既に塩の性質と役割が与えられています。ですから、弟子たちは社会の人々の間に溶け込んで、この世に福音を伝え、キリストの塩味を浸透させていきます。

それはわたしたちクリスチャンにも同様です。この社会の秩序を御心に沿って健全に維持し、複雑な人間関係の調和を促し、各人の個性や長所を引き出して活性化させ、不正や腐敗を防ぐのです。わたしたちを取り巻く社会は、クリスチャンが極めて少ない社会ですが、その中に溶け込んでいかなければなりません。この世に迎合するのではなく、この世にはないクリスチャンとしての塩味を効かせて、人々の心に働きかけていくのです。

塩分濃度について考えると、わたしたちの体液

の塩分は0.9%です。日常の食事ですら一般において感じる濃度は、味噌汁で0.6～0.8%、漬物は2～3%だそうです。海水は3.2～3.5%ですから、塩っからくて飲めませんね。

ちなみに、日本のクリスチャン人口は1%とか、もっと少ないと言われます。神道や仏教を中心とする独特の宗教文化の中ですが、それを異教だからと拒絶したり、逃避するのではなく、地域社会や職場や交友関係の中に溶け込み、クリスチャンらしさを発揮するのなら、この社会を程良く味付けできるのかも知れません。わたしたち一人ひとりがキリストの香りを漂わせ、周囲の人々に証しし、福音を伝えることが大切ではないでしょうか。

ところが、クリスチャンの中にはクリスチャン以外との交流が少ない人がいます。受洗して救われたのだから、この世に染まらず、ノンクリスチャンを極力避けて、清く正しく生きたいという気持ちでしょうか。信仰熱心で厳格なあまり、ノンクリスチャンに排他的になる人もいます。

主イエスは、律法学者やファリサイ派の人々から「徴税人や罪人の仲間だ」と批判されても、罪人と蔑まれている人々と交わり、彼らを神の国へ導きました。わたしたちは主イエスに倣う者として、異教社会や異文化の中にも入っていき、まだイエスを主と告白していない友人・知人に福音を伝えるのです。ノンクリスチャンの友となり、彼らに主イエスを紹介するために、彼らとの交わりに溶け込んでいくのです。

もちろん、十分注意しないと、「ミイラ取りがミイラになる」ということが起こり得ますし、異教社会や異文化の中では、霊的に精神的に大変に疲れるものです。悪霊との闘いもあり、塩気が薄れ、信仰が揺るがされることがあるかもしれません。

わたしたちにはいつも主イエスが共におられます。主は「**疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう**」(マタイによる福音書11章28節)とおっしゃいます。そして、主イエスのもとで、教会での礼拝や交わりを通して、クリスチャンとしての塩気を取り戻し、霊的に強められ、再びこの世に出て行きます。

主イエスは言われます。「**全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい**」(マルコによる福音書16章15節)。